第６学年国語科学習指導案

１　**単元名**　　作品の世界を深く味わおう「やまなし」資料「イーハトーヴの夢」

２　**指導の考え方**

子どもの実態

本学年の子どもたちは，これまでに「カレーライス」の学習で，自分の経験と重ね合わせながら登場人物の相互関係や心情を読む力を身に付けてきている。叙述に立ち止まって自分の考えをまとめ，友達と比べながら言葉にこだわって話し合うことが少しずつできるようになってきている。

読書が好きな子は多く，椋鳩十，重松清など，同じ作者の作品を読み広げる楽しさを味わっている子どももいるが，学年の傾向としては，作者の考え方や生き方とつないで作品を読む読書の楽しさを味わう経験はまだ少ない。

教材の特質

本教材は，宮沢賢治の物語「やまなし」と，資料として添えられた宮沢賢治の伝記「イーハトーヴの夢」から成っている。

「やまなし」は，比喩表現や擬声語・擬態語など，宮沢賢治の独特な表現が特徴的であり，象徴性，思想性の深い作品である。色や光を表す言葉の美しさや巧みな比喩表現を味わい，豊かに想像できる作品であるが，子どもたちにとっては不思議で難解であると感じさせる作品でもある。「イーハトーブの夢」は，宮沢賢治の伝記であり，「やまなし」に描かれた作品世界に宮沢賢治の考え方や生き方が映されていることが分かる資料である。

「やまなし」は，前書き，五月の幻灯，十二月の幻灯，後書きという構成で書かれている。なぜこのような文章構成で書かれているか，かわせみとやまなしが意味しているものを考えた上で，題名が「やまなし」となっているわけを考えさせることで，作者の理想とする作品世界に迫る読み方ができる価値ある教材である。

「五月と十二月の場面を比べる読み方（人物，情景，事件，表現の視点から）」「作品と伝記を比べる読み方（作品の主題と作者の考え方や生き方）」という「比べる読み方」を通して，優れた叙述や象徴性の高い表現を読む力を育てることも期待できる。

指導にあたって

指導にあたっては，読むことの楽しさや価値を実感させることができるように，以下のような授業づくりを行う。

単元の入り口では，単元名やリード文から，宮沢賢治について知っていることや読んだことのある作品について問い，よく知られている作品をいくつか読み聞かせることで，作者についての興味をもたせ，宮沢賢治の描く作品の世界を読んでいこうとする構えをもたせる。学級文庫に宮沢賢治コーナーをつくり，並行して読書ができるようにしておく。宮沢賢治は，今年大震災の被害にあった岩手県の出身であることも伝え，宮沢賢治の背景に興味をもたせるようにする。

読みのめあてをつくる段階では，冒頭の「小さな谷川の底を写した二枚の青い幻灯です。」に着目し，「二枚の青い幻灯で，作者は何を描いているのだろう」という読みのめあてをつくる。

読みのめあてに対する初めの考えをつくる段階では，全文を読んで，二枚の幻灯が前書きと後書きで挟まれている文章構成をとらえさせて，初めの考えを書きまとめさせる。

学習計画を立てる段階では，それぞれの考えを出し合わせる中で読み深める視点①と②を生み出す。

読み深めの段階では，①五月と十二月の二枚の幻灯で，何を描こうとしているのか，②なぜ題名が「やまなし」なのかを読み深めさせる。

読みのまとめの段階では，「やまなし」に描かれた宮沢賢治の世界と「イーハトーブの夢」に書かれている宮沢賢治の考え方や生き方をつないで，「わたしがとらえた宮沢賢治の世界」について交流し合い，自分の読みをまとめさせたい。

単元の出口では，宮沢賢治の他の作品に読み広げることや，既習の新美南吉や椋鳩十などの作者の考え方や生き方を探って作品を読むことなどを紹介し，読書の世界を広げさせたい。

☆焦点化
○二枚の幻灯の対比
○かわせみとやまなし
○「やまなし」の意味
○作者の考え方や生き方とつなぐ。

☆可視化
○自分の考えの図化
○対比して考えることができる板書の工夫
○学習プリントの工夫

☆共有化
○考えの共通点や相違点から意図的にグルーピングしたかっぱタイム

3　目標

○　「やまなし」の作品の世界と「イーハトーブの夢」からとらえた作者の考え方や生き方をつないで読み取り，作者の自然や命に対する考え方や，喜びを与える生き方について，自分の考えを深めることができるようにする。

○　二枚の幻灯を比べる読み方（場面，人物，出来事，比喩表現，情景），作品と伝記を比べる読み方（作品に込められた作者の思いや願いと作者の考え方や生き方）を身に付けることができるようにする。

○　グループや全体による交流を行い，問題解決に向けて互いに考えを出し合って，重ね合わせたり，関係づけたりして「やまなし」に描かれた作者の考え方や思いについて話し合うことができるようにする。

4　学習計画（全１０時間）

次	時	学習活動と内容	教師の支援 （☆焦点化，可視化，共有化の視点から，＊評価規準）
一 読みのめあて	1／10	1　本単元の学習の構えをつくる。 （1）単元名とリード文を読み，読みの構えをつくる。 ○　作品の読み聞かせを聞き，作者や作品の世界，他の作品に興味をもつ。 2　本時のめあてを確認する。 題名と前書きから読みのめあてをつくろう。 3　題名について話し合う。 4　題名と冒頭（前書き）をつないで読みのめあてを生み出す。	○　宮沢賢治について知っていることを問い，震災のあった岩手県の出身であることを知らせたり，いくつかの作品を読み聞かせたりすることで，作者やその作品の世界についての興味を持たせる。 《紹介する本》 「グスコーブドリの伝記」「北守将軍と三人兄弟の医者」「なめとこ山の熊」「よだかの星」「セロ弾きのゴーシュ」「雨ニモマケズ」「どんぐりと山猫」「注文の多い料理店」「風の又三郎」「銀河鉄道の夜」など ☆　冒頭（前書き）の一文から，作者が二枚の幻灯で何かを映し出そうとしていることに着目させる。**（焦点化）**
		やまなし　　宮沢　賢治作 ※どんな意味があるんだろう。　※動かない。作者が伝えたい一瞬の映像 ※物語の中で大切な役割をしているもの　※止めて見せたいものがある **小さな谷川の底を写した，二枚の青い幻灯です。** ※人目につかない目立たない場所　※なぜ二枚なのだろう。→比べるのだろうか。 ※二枚の青い幻灯に何を映し出しているのだろうか。 読みのめあて 小さな谷川の底を写した二枚の青い幻灯で，作者は何を描いているのだろう。	
		5　本時学習をまとめる。	＊　題名や冒頭から読みのめあてをつくっている。
二 読みの		全文を読み，読みのめあてに対する初めの考えをまとめよう。	

めあてに対する初めの考え	2／10	1　全文を読み，新出漢字や音読の練習・難語句の意味調べをする。 2　文章構成とあらすじをとらえる。 3　読みのめあてに対する初めの考えを書きまとめる。 【初めの考え】 ・二枚の幻灯って何だろう。よくわからないなぁ。 ・不思議な言葉がたくさん出てきている。 ・五月と十二月に意味がありそうだ。 ・題名の「やまなし」は何を表しているのかなぁ。 4　本時学習をまとめる。	○　範読のあと，一斉音読や一人読みなど音読のさせ方を工夫し，すらすら音読できるようにする。 ☆　二枚の幻灯が前書きと後書きで挟まれていることに着目させる。**（焦点化）** ＊　読みのめあてに対する初めの考えを書くことができている。
三　学習計画	3／10	学習計画を立てよう。 1　初めの考えを出し合う 2　考えの重なりや違いをもとに読み深める学習計画を立てる。 【読み深めのめあて】 ①五月と十二月の二枚の幻灯で何を描いているのだろう。 ②なぜ題名が「やまなし」なのだろう。 3　本時学習をまとめる。	☆　自分と友達の考えの重なりや違いについて話し合わせる。**（共有化）** ＊　自分と友達の考えの違いや重なりに気付き，読み深めるめあてをつかむことができている。
四　読み深め①	4／10	二枚の幻灯で何を描いているのか読み深めよう。 1　本時のめあてを確認する。 2　「五月」と「十二月」のそれぞれがどんな世界を描き出しているかとらえ，自分の考えを書く。（書く活動①） （1）五月と十二月を比べる。 （2）二枚の幻灯で，描こうとしているものについて自分の考えを書く。	☆　それぞれの場面を言葉と図で表にまとめてとらえさせる。**（可視化）** ○　なぜ五月と十二月なのか，かわせみとやまなしはどんな存在か考えさせる。 ○　二枚のスライドを重ねて比べるなどして考えさせる。

	場面	人物	出来事	表現
五月	日光（昼） 生き生き 命の誕生 さわやか	かにの子どもら クラムボン 魚 かわせみ お父さん 図	そのときです。 にわかに天井に ～ いきなり飛びこんできました	日光の黄金波から来る光のあみ まっすぐなかげの棒～ 黄金の光を～
十二月	月光（夜） 寒い 冷たい 動かない	かにの子どもら お父さん やまなし 図	そのとき、 トブン。 黒い丸い大きなものが ～	ラムネのびんの月光 小さなきりの形の水晶のつぶ 金雲母のかけら

二枚の幻灯で描こうとしているものについての自分の考え

	5／10（2組本時）	3　二枚の幻灯で何を描いているのか話し合う。 （1）少人数で話し合う。（かっぱタイム） （2）全体で話し合う。 ○　かわせみとやまなしは，どんな役割を果たしているか。	☆　根拠を明らかにし，考えを深めたり，確かにしたりすることができるように，三人組の似た考え同士のグループをつくる。**（共有化）** ☆　「五月」と「十二月」を比べやすいように上下に分けて板書する。**（可視化）**

五月

そのときです。
にわかに天井に白いあわが立って，
青光りのまるでぎらぎらする 擬態語
鉄砲だまのようなものが 比喩
いきなり飛びこんできました。
コンパスのように黒くとがっている
比喩　※こわく鋭い感じ 色
まるで声も出ず，
居すくまって
「魚はこわいところへ行った。」
「こわいよ。」　※不気味
※死の恐怖
光のあみはゆらゆら，のびたり縮んだり，
花びらのかげは静かに砂をすべりました。

十二月

そのとき，トプン。 擬声語
黒い丸い大きなものが～ずうんとしずんで～
きらきらっと黄金のぶちが光りました。
擬態語　色
「あれはやまなしだ。…
ああいいにおいだな。」
いいにおいでいっぱいでした。
ぽかぽかながれていく
おどるようにして
月光のにじがもかもか
色　擬態語
「おいしそうだね，…」
※生の喜び

		○　五月と十二月では，どちらが重要なのか。 ⇩ どちらも重要。二枚で表したい。 4　本時学習をまとめる。 （1）本時のめあてについて自分の考えを書きまとめる。　（書く活動②）	○　話し合いをもとに深まった自分の考えについて書きまとめさせる。

「五月のかわせみ」は，輝く光のなかに訪れる突然の死の世界を，「十二月のやまなし」は，静かで寂しい冬の夜に訪れる穏やかで美しい喜びの世界を描いている。だから，二枚の幻灯で，厳しいこともあれば，希望の光もある現実世界を表している，など。

		（2）使った「読みのたから」を確認する。 ・場面を比べる読み方 ・人物を比べる読み方 ・出来事を比べる読み方 ・表現を比べる読み方（比喩，擬態語など）	＊　「五月」と「十二月」の二枚の幻灯を比べて，どんな世界が描かれているのか自分の考えを書くことができている。
読み	6／	なぜ題名が「やまなし」なのか読み深めよう。 1　本時のめあてを確認する。 （1）前時の学習を想起し，本時学習のめ	○　前時までの学習内容や学習計画を掲示し，想起させる。

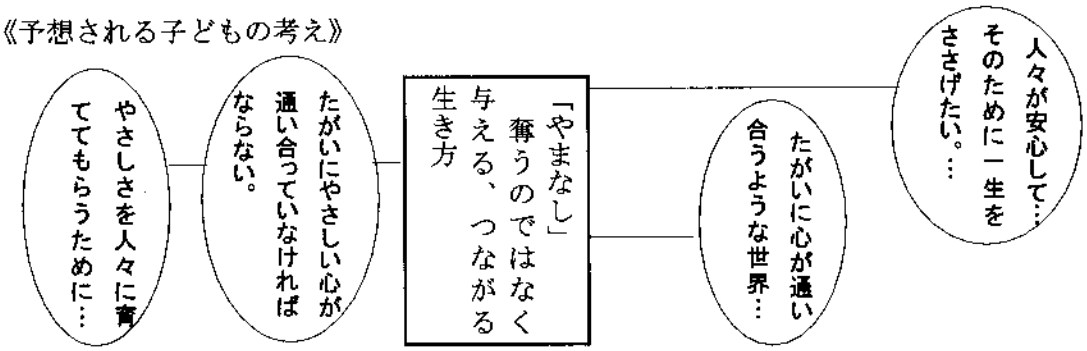
深め②	10	あてを確認する。 2　なぜ，宮沢賢治さんは「やまなし」という題名にしたのか，自分の考えを書く。（書く活動①）	○　前時の学習プリントをもとに自分なりの考えを書かせる。 ☆　根拠を明らかにして，図化して考えを書かせる。（**可視化**）
	7／10（1組本時）	3　なぜ題名が「やまなし」なのか話し合う。 （1）少人数で話し合う。（かっぱタイム） ○　なぜやまなしが題名についているのか。 （2）全体で話し合う。 ○　やななしをどうとらえるか。 ○　五月の幻灯は必要ないのか。 4　本時学習をまとめる。	☆　学習プリントを見せ合いながら，やまなしの役割について考えさせる。（**共有化**）
		やまなし 題名を読む ※作者が伝えたいこととつながっている かわせみ　命を奪うもの・死　⇔　やまなし　喜び・幸せを与えるもの	
		（1）本時のめあてについて自分の考えを書きまとめる。（書く活動②）	○　友達の読みを聞いて深まった自分の読みについて書きまとめさせる。
		自然の中にはかわせみのように命を奪わないと生きていけない厳しさもあるけどれど，やまなしのような喜びもある。 五月の世界は自然の掟というか現実世界そのものだと思う。しかし，宮沢賢治さんは，十二月の希望の世界を望んでいたと思う。やまなしのような生き方は人に喜びをあたえる。宮沢賢治さんが題名にしたのは，そんな生き方をしたいと思っていたからではないかと思う。だから，やまなしは宮沢賢治さん自身のゆめが表れているのではないかと思う。など	
		（2）使った「読みのたから」を確認する。 ・題名を読む読み方	＊　言葉や文を根拠にして，題名「やまなし」に込められた作者の思いについて書きまとめている。
五　読みのまとめ	8・9／10	宮沢賢治さんの考え方や生き方とつないで，「やまなし」の世界を見直し，読みのまとめをしよう。 1　本時のめあてを確かめ，前時までに読み深めてきたことを振り返る。 2　宮沢賢治の考え方や生き方をとらえる。 （1）「イーハトーブの夢」から宮沢賢治の考え方や生き方をとらえる。 ・苦しい農作業の中に楽しさを見つけ，工夫し，喜びを見つける。 ・「稲の心が分かる人間になれ」 ・自然に勝つにはみんなで力を合わせなければならない。 ・人間も動物も植物もたがいに心が通い合う世界が宮沢賢治の夢	☆　「イーハトーブの夢」を年表に要約させる。（**可視化**） ☆　宮沢賢治の考え方や生き方が分かるところを書き抜かせる。（**焦点化**）
		（2）宮沢賢治の考え方や生き方と「やまなし」を比べて，作品世界を見直し，自	☆　「やまなし」に描かれた作品世界についての自分の読みと，「イーハトーブの夢」にあ

	分の考えを書く。（書く活動①）	る宮沢賢治の考え方や生き方とつないで，自分の考えを図化して表わさせる。（**可視化**）
10／10（3組本時）	3　考えを交流する。 （1）少人数で話し合う。（かっぱタイム） （2）全体で話し合う。 ○　やまなしのように生きたいと願っていたのではないだろうか。	☆　根拠を明らかにし，考えを深めたり，確かにしたりすることができるように，三人組の似た考え同士のグループをつくる。（**共有化**） ☆　学習プリントを見せ合いながら話し合わせる。（**共有化**）

１８９６年 岩手県花巻市：津波，洪水，三陸大地震…５万人もの死者
農民たちは大変な苦しみを・・・⇒「なんとかして農作物の被害を少なくし，人々が安心して田畑を耕せるように・・・」
「そのために一生をささげたい。…」　※　立志

・苦しい農作業の中に，楽しさを見つける。工夫することに喜びを見つける。そして，未来に希望をもつ。　※賢治の考え方や生き方
・暴れる自然に勝つためには，みんなで力を合わせなければならない。
たがいにやさしい心が通い合っていなければならない。⇒そのやさしさを人々に育ててもらうために詩や童話を書いた。
※作品に込められた願い　※作品を書いた動機
人間も動物も植物も，たがいに心が通い合うような世界　※イーハトーブの物語を通して追い求めた理想
「羅須地人協会」　石灰肥料会社　肥料のことを教わりに来た来客への応対

《予想される子どもの考え》



4　本時学習をまとめる。 （1）本時学習したことを書きまとめる。（書く活動②）	＊　宮沢賢治の考え方や生き方とつないで，見直した「やまなし」の世界について書きまとめることができている。

生きる世界には，五月のような厳しい世界もあるが，五月も十二月もつながっている。宮沢賢治さんは，奪うのではなく与え，つながるやまなしのような生き方をしたいと願っていたと思う。たがいに心を通い合わせ，やさしさをもって生きることを大事にしたいという宮沢賢治さんの考え方や生き方とが作品に表れていると思いました。私も，まずは相手とつながって，やさしい心を通い合わせる生き方をしていきたいと思います，など。

（2）本単元で使った読み方をふり返る。 ○　比べて読む読み方 （場面，情景描写，比喩表現，色彩表現擬態語，擬声語）題名の意図を読む ○作者の考え方や生き方と比べて読む （3）今後の学習について見通しをもつ。	○　他教科・他領域の学習やチャレンジタイムの読書へつなげていく見通しをもたせる。 ・宮沢賢治の他の作品へ ・好きな作者とその作品を比べて読む ・伝記を読んで，いろいろな人物の生き方について考える　など

5　本時（7／10）

公開授業①　読み深め②

6　本時の目標

○　題名が「やまなし」になっているわけを２枚の幻灯を使って話し合うことで作者の伝えたかったことについてまとめ，読み深めることができるようにする。

○　かっぱタイムの話合いでは，前時に書いた自分の考えを図化して表した物をもとに根拠をはっきりさせて話すことができるようする。

7　本時指導の考え方

前時までに子どもたちは，題名と冒頭から「小さな谷川のそこを写した二枚の青い幻灯で，作者は何を描いているのだろう。」という読みのめあてをつくっている。そして，読みのめあてに対する初めの考えの話合いから，読み深めの視点として，次の二点を見い出している。

①　五月と十二月の情景を読み，かわせみとやまなしはどんな存在なのか読み深めよう。

②　二枚の青い幻灯で読み取ったことをもとに，なぜ題名が「やまなし」なのかを読み深めよう。

本時は②の２時間目で，なぜ作者は，十二月にだけ登場する「やまなし」を題名にしたのかを考えることで，作者の伝えたいことを読み深める学習場面である。

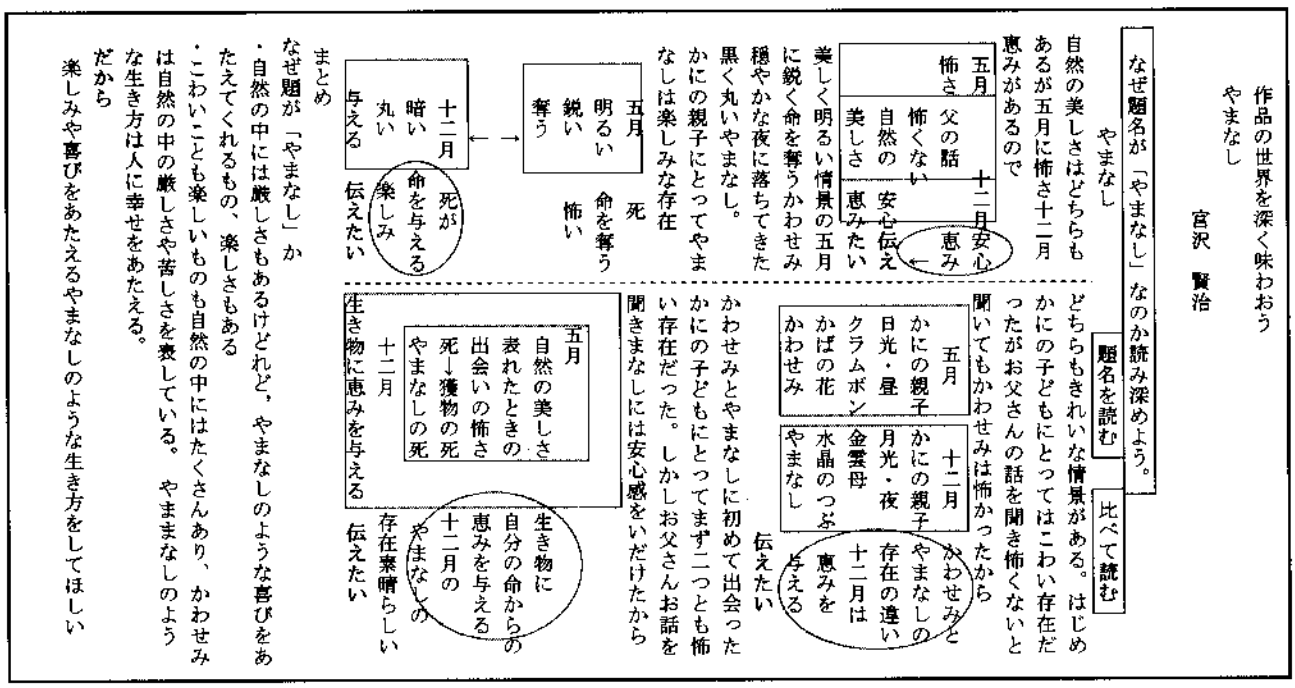
前時に，子どもたちは，二枚の幻灯で読み取ったことをもとに，なぜ題名を「やまなし」にしたのか自分の考えたことを，図化して表している。**（可視化）**

そこで，本時指導にあたっては，自分の考えを確かにするために，同じような考えのグループで話し合いをさせる。（かっぱタイム）かっぱタイムではグループの代表児童に自分の考えをつくる拠り所としたわけをはっきりさせて話をさせ，それに対してグループの児童が自分の考えと比べながら質問・意見を言い，題名がなぜ「やまなし」かについて話し合わせる。**（焦点化）**十二月が後になっていることや，「やまなし」が喜びを与えてくれるものだからと考えることが予想される。

全体で交流をする際には，４～５人代表児童の発表をもとに話合いをし，前書きと後書きがあることの意味を問うことや二枚の幻灯を対比して十二月に表したいことをより強調していることに気付かせたい。**（共有化）**

本時のまとめでは，板書を使って学習内容を振り返り，本時のめあてについて深まった考えを書きまとめさせる。また，使った「読みのたから」を確認する。

8　板書計画



9　本時の展開

学習活動と内容	教師の支援 （☆焦点化，可視化，共有化の視点から，＊評価規準）
1　本時学習のめあてを確認する。 なぜ題名が「やまなし」なのか，考え読み深めよう。	○　前時までに学習してきたことを振り返り本時学習の見通しがもてるようにする。 ○　掲示物を使って二枚の幻灯を比べてとらえた情景の違いや，谷川に飛び込んできたものが表しているものの違いを振り返らせる。
2　なぜ作者は，十二月にだけ登場するやまなしを題名にしたのか考えたことを話し合う。	
（1）中心となる場面を音読する。 （2）前時書いた自分の考えを図化したものを見直す。 （3）書いて考えたことをもとに小人数で話し合う。（かっぱタイム） （4）グループで話し合ったことをもとに，代表児童４～５人が発表をし，全体で交流する。	○　似た考えの子ども同士の３～４人のグループで話し合う。 ☆　自分の考えを図化したものをもとに，自分の考えをつくる拠り所としたわけをできるだけ分かりやすく短くはっきりさせて話し合わせる。（**可視化**） ☆　考えのはっきりとした４～５人の代表児童を指名し発表させる。（**焦点化**） ☆　前書きと後書きがあることの意味を問うたり，五月の場面は必要ないのではと問うたりしながら二枚の幻灯を対比して十二月に表したいことを強調していることに気付かせる。（**共有化**）
3　本時学習をまとめる。 （1）本時に読み深めたことを書きまとめる。 （書く活動）	

自然の中には厳しさもあるけどれど，やまなしのような喜びをあたえてくれるもの，楽しさもある。
かわせみは自然の中の厳しさや苦しさを表している。 やまなしのような生き方は人に幸せをあたえる。
だから
作者は楽しみや喜びをあたえる「やまなし」のような生き方をしたいと思っていたと思う。
私たちの世界も「五月」や「十二月」のような世界でなりたっている。

（2）本時で使った「読みのたから」を確認する。 ・題名を読む （3）今日の学習を振り返る。	○　使った読み方を掲示物を使ってまとめる。 ＊　言葉や文を根拠にして，なぜ題名がやまなしになっているかを捉えることができる。

5　本時（５／１０）

公開授業①　読み深め①

6　本時の目標

○　五月と十二月の幻灯を比べることから，二枚の幻灯で描かれていることを読み深めることができるようにする。

○　自分の考えをかっぱタイムで交流し合うことにより，自分の考えをより明確にしながら全体交流ができるようにする。

7　本時指導の考え方

前時までに子どもたちは，題名と冒頭から「小さな谷川の底を写した二枚の青い幻灯で，作者は何を描いているのだろう。」という読みのめあてをつくり，文章構成やあらすじをとらえ，読みのめあてに対する初めの考えを書きまとめてきた。また，わからないことやはっきりしないことから読み深めのめあてを話し合い，学習計画を立ててきた。前時では，読み深めのめあて①である「五月と十二月の幻灯で描いているのは何だろう。」に取り組み，さらに，「小さな谷川の底を写した，二枚の青い幻灯です。」という冒頭から五月と十二月の幻灯を比べ，場面，人物，事件，表現をまとめている。そこでは，「なぜ五月と十二月なのか」また，「かわせみとやまなしはどんな存在なのか」という考える視点を明確にし，作者が二枚の幻灯で何を描こうとしているのかを考え，書きまとめている。

本時は，前時で書きまとめた考えを交流し合い，二枚の幻灯で何を描こうとしているのかについて読み深める場面である。

そこで，本時指導にあたっては，まず，かっぱタイムで前時に書きまとめた五月と十二月の幻灯を操作しつつ，根拠を明らかにしながら似た考え同士の少人数で話し合う。（**可視化**）かっぱタイムでは，自分の考えにさらなる広がりや深みを持たせられるよう，似ているなかでも自分がもっていなかった考えに気付かせるようにする。

次に，全体で話し合い，二枚の幻灯で何を描こうとしているのかについて，考えを深めていく。その際，五月と十二月でのかわせみとやまなしはどういう役割果たしているのかを確認し，二枚の幻灯が表していることをより明確にする。（**共有化**）

さらに，五月と十二月の二枚の幻灯は，どちらが重要に扱われているのかを問うことで，五月と十二月のどちらの幻灯が欠けても，二枚で描こうとした世界は表せないことに気付かせる。

最後に，本時のまとめでは，「五月」と「十二月」のそれぞれではなく，冒頭に立ち戻り，「二枚の青い幻灯で」作者が伝えたいことについて，めあてに対して深まった自分の考えをまとめさせる。（**焦点化**）（書く活動②）

8　板書計画

作品の世界を深く味わおう

やまなし　　宮沢賢治

めあて
五月と十二月の二枚の幻灯で何を描いているのか読み深めよう。

前時に書きまとめた「五月」と「十二月」を図化したもの

○　子どもの考え
・かわせみが奪う死とやまなしが与える喜び
・死んでいくという自然のことを描いている。
・かわせみは生きるためにうばっていく。
・やまなしも生かすために落ちてくる。
・生きることについて描いている。
・きびしい自然のなかにも喜びがある。

○二枚の幻灯で描いているもの
・「五月」と「十二月」の幻灯には、かわせみが生きるため死をもたらし、やまなしが死から生を与えるように、巡る命を表している。
・かわせみは死を与えるが、やまなしは生を与える存在なので、生や死という自然のきまりを表している。
・「五月のかわせみ」は、輝く光のなかに訪れる突然の死の世界を、「十二月のやまなし」は、静かで寂しい冬の夜に訪れる穏やかで美しい喜びの世界を表している。だから、二枚で厳しいこともあれば、希望の光もある現実世界を表している。

9　本時の展開

学習活動と内容	教師の支援 （☆焦点化，可視化，共有化の視点から＊評価規準）
1　本時のめあてを確認する。 五月と十二月の二枚の幻灯で何を描いているのか読み深めよう。	○　前時までに学習してきたことを振り返り本時学習の見通しがもてるようにする。
2　五月と十二月の二枚の幻灯で何を描いているのか，話し合う。 （1）本時場面を音読する。	○　前時に書きまとめた二枚の幻灯を掲示しておく。
（2）五月と十二月の二枚の幻灯で何を描いているのか，話し合う。（かっぱタイム） ・かわせみもやまなしも死を表している ・かわせみもやまなしも生を表している。 ・一二月のきびしい世界にやまなしが落ちてくるような喜びの世界を表している。 ・自分を犠牲にして，与える生き方をしている。 ・一年間を通して，巡る命を表している。	☆　五月と十二月の幻灯を操作しつつ，根拠を明らかにしながら似た考え同士の少人数で話し合う。（**可視化**） ○　二枚の幻灯を操作して，考えを交流させる。 ○　根拠を明らかにしながら，考えを交流させる。 ○　考えを深め，確かにすることができるようにする。 ○　似た考え同士のグループで話し合う。（3人）
（3）全体で交流する。	☆　二枚の幻灯が表していることをより明確にする。（**共有化**）
3　本時学習をまとめる。 （1）本時のめあてについて自分の考えを書きまとめる。　（書く活動②）	☆　冒頭に立ち戻り，「二枚の幻灯」で作者が描こうとしたものについて考えをまとめる。（**焦点化**）。
子どもたち一人一人の考えの深まりをまとめとする。 （例）「五月のかわせみ」は，輝く光のなかに訪れる突然の死の世界を，「十二月のやまなし」は，静かで寂しい冬の夜に訪れる穏やかで美しい喜びの世界を表している。だから，二枚で厳しいこともあれば，希望の光もある現実世界を表している。	
（2）本時で使った「読みのたから」を確認する。 ・場面を比べて読む	＊　二枚の幻灯で描かれていることについて読み深めたことを書きまとめている。

5　本時（１０／１０）

公開授業②　読みのまとめ

6　本時の目標

○　「やまなし」の読みを，「イーハトーブの夢」からとらえた宮沢賢治の考え方や生き方とつないで，作品が表している世界について考え，自分の読みをまとめることができるようにする。

○　自分の考えを図化して表したものをもとに，作品と作者の考え方や生き方について，少人数で交流したり，代表児の考えをもとに全体で交流したりして，宮沢賢治の作品世界について，自分の考えを深めることができるようにする。

7　本時指導の考え方

前時までに子どもたちは，「やまなし」の世界を読み深めた上で，「イーハトーヴの夢」から作者である宮沢賢治の考え方や生き方をとらえている。宮沢賢治の考え方や生き方が分かる「イーハトーヴの夢」の叙述とつないで，宮沢賢治の描いた「やまなし」の世界について自分なりの考えを図化して書き表している。

本時は，前時につくった自分の考えを交流し合い，「やまなし」で描きたかったものは，作者の考え方や生き方そのものだったのではないかと，作品と伝記を比べて確かめ，これまでの読みをまとめる場面である。

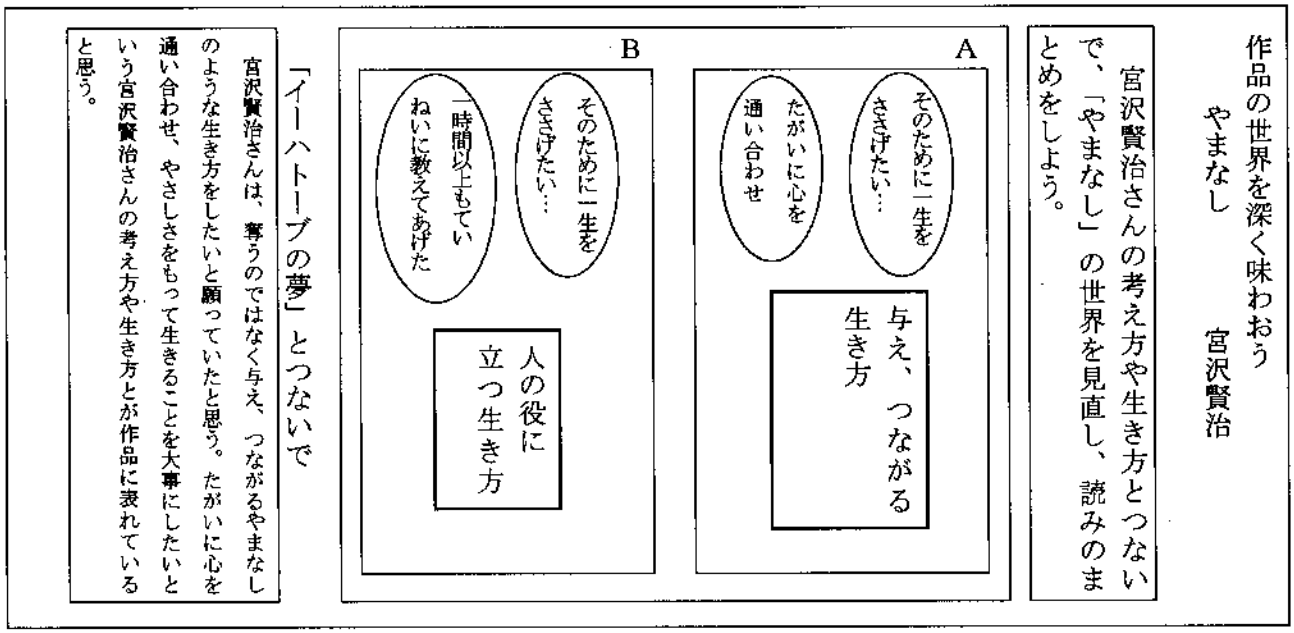
そこで，本時指導にあたっては，まず，掲示物を使って，これまでの学習を想起させ，本時のめあてをつかませる。自分の考えを図化したものをもとに「奪うのではなく与え，つながるやまなしのような生き方」「幸せや喜びを与える生き方」「人の役に立つ生き方」などの代表児のどの考えと似ているか，考えの傾向を確認させる。**（焦点化）**

次に，少人数で話し合せる。（かっぱタイム）かっぱタイムに際しては，前時に書いた自分の考えを図化したものを示しながら，どの叙述とどうつなげて考えたか話し合わせる。**（可視化）**子どもたちの考えには，同じ考えや似た考えで根拠にした叙述が違うものや，その逆のものもあると予想されるため，前時に書かせたものをもとにして意図的につくった３人組で話し合わせる。一人の子どもの考えをもとに司会の役割をする子どもも含めた他の二人が質問したり，自分の考えを述べたりしながら，その子の考えをさらによいものにしていく話合いを進めさせたい。

そして，全体で交流する際には，代表児の図をもとに考えを交流させていく。**（共有化）**

最後に，本時のめあてについて深まった自分の考えを書まとめさせる。（書く活動②）その際，読みのめあてに対する初めの考えとして書いたものを振り返らせ，付加・修正・強化されたものをまとめさせる。また，これまでの学習で作品の世界を深く味わうことがができたのは，どんな読み方をしてきたからか振り返らせ，読み方のまとめをして，今日の学習を振り返らせたい。

8　板書計画



9　本時の展開

学習活動と内容	教師の支援 （☆焦点化，可視化，共有化の視点から，＊評価規準）
1　本時のめあてを確認する。 宮沢賢治さんの考え方や生き方とつないで，「やまなし」の世界を見直し，読みのまとめをしよう。	○　前時までに学習したことを掲示物をもとに，振り返らせ，本時学習の見通しがもてるようにする。 ☆　自分の考えが，板書にあるどの考えと似ているか確認させる。（**焦点化**）
2　宮沢賢治さんの考え方や生き方とつないで，「やまなし」の世界について話し合う。 （1）宮沢賢治の考え方がよく分かる文を音読する。	○　「イーハトーブの夢」に書かれている宮沢賢治の考え方がよく分かるかぎで書かれた文を音読させる。
（2）少人数で話し合う。（かっぱタイム） （例） ・「やまなし」に表されていた自然の厳しさと自然の恵みは，賢治さんが感じてきた自然に対する見方そのものだと思います。「イーハトーブの夢」の○ページに… ・「やまなし」のように，恵みをもたらす生き方は賢治さんが目指した生き方だったことが分かります。「イーハトーブの夢」の○ページの…	○　意図的に構成した３人組で話し合わせる。３人の中の一人の考えについて質問したり，意見を述べたりして話し合わせる。 ☆　前時に書かせたもの（自分の考えを図化したもの）をもとに話し合わせる。（**可視化**）
（3）全体で交流する A：奪うのではなく与え，つながるやまなしのような生き方 B：人の役に立つ生き方 C：幸せや喜びを与える生き方　など	☆　代表児の考えをもとに交流させる。 （**共有化**）
3　本時学習をまとめる。 （1）本時に深まったことを書きまとめる。 （書く活動②）	○　読みのめあてに対する初めの考えとして書いたものをふり返らせ，付加・修正・強化されたことを振り返らせる。
宮沢賢治さんは，奪うのではなく与え，つながるやまなしのような生き方をしたいと願っていたと思う。たがいに心を通い合わせ，やさしさをもって生きることを大事にしたいという宮沢賢治さんの考え方や生き方がそのまま作品に表れていると思いました。私も，まずは相手とつながって，やさしい心を通い合わせる生き方をしていきたいと思います。など	
（2）単元を通して使った読み方のまとめをする。 ○　比べて読む読み方 （場面，情景描写，比喩表現，色彩表現擬態語，擬声語）題名の意図を読む ○作者の考え方や生き方と比べて読む	○ 比べて読む読み方をしてきたことを振り返らせ掲示物を使ってまとめる。 ○　他教科，他領域，チャレンジタイムや生活での読書につなげていく見通しをもたせる。 ・宮沢賢治の他の作品へ ・好きな作者とその作品を比べて読む ・伝記を読んで，いろいろな人物の生き方について考える　など
（3）学んだことをこれからの自分にどう生かすか今後の学習について見通しをもつ。	